

主体的な学びをめざして

副校長 武藤 晋

後期が始まり半月が過ぎ、今年ももう11月です。朝晩冷え込む日が増え始め、校庭の木々も少しずつ色づきを増し、葉を落とし始めています。

秋は学校行事が盛りだくさんの季節です。9月の3年生の川崎民家園・森永工場見学に始まり、どの学年も、遠足や社会科見学、体験学習など、校外へ出かけ、様々な学校の中だけでは経験できないことや見られないものに出会い、学びを深めています。

10月15日の開校記念日に、3年生による発表がありました。学校やまちの歴史などについて、調べたことを発表してくれました。広い体育館の中、全校児童の前で、マイクも使わず、一人ひとり大きな声で堂々と発表していました。発表の仕方も、スライドや大きな画用紙にかいた絵や文字を使ったり、劇やクイズにしたりと、どのグループも工夫して伝えようとしていました。発表の練習風景でも、舞台練習を待っている間を無駄にせず、自分たちで声の大きさを確認しあったり、発表の練習をしたりしている姿に感心しました。3年生の子どもたちにも大きな自信になったのではないかと思います。

では、どうしてこのような発表や姿を見ることができたのでしょうか。それは、自分で知りたいこと調べたいことを決め、どうやったら調べられるか考えて自分で資料を探したり、インタビューをしたりして調べたからだと思います。自分の中から生まれた疑問や知りたいことだから、何とか調べたい、自分で調べて分かったことだから、みんなに伝えたいという思いが強くなっていくのだと思います。

先日、1年生と一緒に、大池公園に秋探しに行きました。雨上がりでありあまり条件はよくなかったのですが、どんぐりやまつぼっくりを一生懸命に集め、黄色や赤に染まった落ち葉、秋の虫など様々な秋を見つけました。「このどんぐりでこまを作ろうかな。」「副校長先生、これでゲーム作れるよ。」こんな声も聞くことができました。自分でやりたいことを見つけることも、活動の大きなエネルギーになっていくと思います。また、このあとこま作りを進める中で、「もっとよく回るこまにしたい。」「どんなどんぐりがよく回るんだろう?」「軸はどのようにつけるとよく回るんだろう?」「回し方のこつは?」など様々な思いや疑問を見つけ解決していく姿が目に見えます。落ち葉一つを見ても、何で色が変わるのか、なぜ赤と黄色があるのか、なぜ色の変わらない葉もあるのか、落ち葉を使って何かを作りたいなど、様々な疑問や活動がうかんできます。子どもたちが「はてな」「なぜだろう」「知りたい」「やってみよう」といった目や気持ちをもてるように、そしてその思いを大切に、学習活動を進めていくことで、意欲の高まりや学びの深まりにつながっていくのだと思います。

これからも、さまざまな教科、場面で子どもたちの興味・関心を引き出し、主体的に学ぶ姿をめざしていきたいと思います。